

【2】東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 2016. 9. 13.

稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ  
帰りは山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランドでした



山科 西野山市街地から眺める稲荷山



山科側の稲荷山山頂 三の峯参詣道



もう 何十年ぶりか? 久しぶりに歩きはじめた稲荷山。  
山科側の山中は 緑の林に包まれた静かな空間の中を稲荷山山頂三ヶ峰への小道がつづく。  
昔から伏見稲荷への参詣する多くの人かたどった道。  
霧雨けふる林の中に幾つも名も知れぬ祠や塚そして行場がポッと現れてくる 摩訶不思議なワンダーランド。  
神が集う山 今はやりのパワースポットか?  
初めて山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを随所で体現させてくれる。  
霏がかった林の中に 赤い鳥居が正面向こうに浮かんでいる。  
稲荷神が降臨した稲荷山山頂 三ヶ峰への参道の入口である。  
何十年ぶりかの三ヶ峰 随分変わっているようですが、 今はどうなっているのか.....



京都 東山三十六峰越 walk をしようとなった本年6月 山科西野山を歩いた記録です。

このwalk で知った山科の歴史などに触れていますので、ご参考まで

【和鉄の道・Iron Road】 by Mutsu Nakanishi

◆ 京都山科 西野山walk 2016.6.3.

古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00htm>

稲荷山概要 稲荷山と伏見稲荷 & 稲荷神の伝承 稲荷信仰に潜むと土着の神

1. 稲荷山横断ハイク walking Map

稲荷山横断ハイク walking Map 伏見稲荷大社へ ← 稲荷山三ヶ峰 ← 山科IC横登山口から



2. 稲荷山 稲荷神降臨・稲荷信仰の伝承

◆ 伏見稲荷大社と稲荷山 稲荷神が降臨した三ヶ峰 稲荷信仰の象徴 赤い千本鳥居と稲荷山の杉



伏見稲荷大社



七条大橋周辺より 鴨川越しに眺める東山の南端 西野山・稲荷山 2016.9.13

伏見稲荷大社は京都東山36峰の南端に位置する稲荷山三山(三ヶ峰)を「稲の穀霊神・稲荷大神」が宿る山・神体山とする神社で、稲荷山の麓に本殿があり、稲荷山全体を神域とする。全国に約3万社あるといわれる稲荷神社の総本宮である。旧称は稲荷神社。式内社、二十二社の一社。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁に属さない単立神社。

稲荷大明神の神名化された下記5柱の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する。稲荷山三ヶ峰の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明応8年(1499年)に本殿に合祀された左右の摂社、「田中大神」・「四大神」とともに、五柱の神を一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。

稲荷神社の起源は「山城国風土記」逸文に残されていて、711年(和銅4年)伊弉具牟公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峰(稲荷山)に三柱の神を祀ったことに始まる。それには富裕だった伊弉具牟が、お餅を弓矢の的にしたところ、餅は白い鳥になって飛び去り、稲荷山に舞い降り、そこには「稲が生え(稲成りいなり)た。伊弉具牟の子孫は、伊弉具牟の過ちを悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稲荷神社の起源とされている。

◎ 稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴とされ、伏見稲荷大社では神楽を舞う巫女の頭にも、杉の葉が飾られる。



稲荷山一の峰 伏見稲荷大社上社 2016.9.13



◆ 稲荷山三ヶ峯の社の祭神について インターネット <http://amago.hatenablog.com/entry/2014/08/01/125701> ほかより

伏見稲荷大社は稲荷大明神の神名化された下記5柱の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する総本宮。稲荷山三ヶ峯の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明応8年(1499年)に本殿に合祀された左右の摂社、「田中大神」・「四大神」一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



伏見稲荷大社 本殿を眺める

本殿 向かって左から 田中大神 佐田彦大神 宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神 の五柱がまつられ、これら五柱の神々の総称が「稲荷大神」とされている。稲荷神は古く一柱の神のように伝えられていたものが、平安時代には下社、中社、上社に三座の神々(宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神)が祀られ、やがて新たに二座(田中大神 佐田彦大神)を加えて現在の形になったと見られてる。

稲荷山の山上 三ヶ峰に祀られている三座の神々は古墳時代にまで遡る稲荷山の神奈備信仰とも結びついており、今でも一ノ峰(上之社神蹟=末廣大神)、二ノ峰(中之社神蹟=青木大神)、三ノ峰(下之社神蹟=白菊大神)の三ヶ峰への信仰を色濃く残っています。(御神蹟とは、太古に神が宿っていた場所といい、また、三ヶ峰の大神は稲荷大明神の神明化された神々とされている。)

また、三ヶ峰の社の祭神については時代の移り変わりによって諸説ありますが、現在の大神の見解では、下社=宇迦之御魂大神、中社=佐田彦大神、上社=大宮能売大神とし、下社摂社の田中大神、中社摂社の四大神については由緒不明であるものの、「元は稲荷神と何らかの深い関わりがある地主神、あるいは土着的傾向が濃厚」とし、五柱の神を祭神として 伏見稲荷本殿に 一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



一の峯 上社



二の峯 中社



間の峯 荷田社



三の峯 下社

稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴

弘法大師と「稲を担う老翁」 稲荷神が 京都東寺の守り神

**「稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴」**  
 稲荷神社の起源は「山城国風土記」逸文に残されていて、711年(和銅4年)伊侶具素公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峯(稲荷山)に三柱の神を祀ったことに始まる。  
 その理由は伊侶具がお餅を弓矢の的にしたところ、餅は白い鳥になって飛び去り、稲荷山に舞い降り、そこには稲が生えた。(稲成り・いなり)伊侶具の子孫は 伊侶具の過ちを悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稲荷神社の起源とされており、稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴とされている。

そんなイメージで見るからでしょうか、稲荷山の道筋の杉林は心なしか、密集していて林が暗い。異次元の空間の感じが漂う。霧雨の林の中 雨粒は落ちてこないのですが、蒸し暑くポケットの地図も内から濡れて びしょびしょです。

119番通報ポイント番号【3】 11:51

この周辺は西野山 山科区に属している。一方稲荷山全体は伏見区で、正確には東西に並び連なる二つの山。伏見稲荷の神域も稲荷山。しかし、ほぼ同じ高さの山が連なっていて 全体を稲荷山と親しまれている。

**伏見稲荷大社・間の峯 荷田社 と 荷田氏**

伏見大社の由来についての伊奈利伝承に対して、稲荷神の顕現を「稲を荷なう老翁」に求める伝承があり、伏見稲荷で奉氏とともに神官を勤めた荷田氏系の伝承とされている。

稲荷大明神流記(南北朝時代)による(大意)  
 『弘治7年(816)4月の頃、弘法大師が紀州田辺の宿で身の丈八尺あまりの異相の老翁に遇った。(これを神と知った)大師は、鎮護国家のため密教経路の道場・東寺において神の加護を待つと告げると、老翁はそのみざりには必ず参会して大師の法命を守るであろう、と答えた。降って弘治14年(823)4月13日、彼の紀州の老翁が、稲を担い杉の葉を掲げ、三人の女性と二人の童子をともなうて東寺の南門にやってきた。大師は喜んでこれを飲待し、道僧もこれに習った。老翁は、しばらく樂守の家に寄宿していたが、その間大師は東寺の旭山に勝地を定めて17日間鎮壇し、稲荷の老翁を神として祀った』とある。

同じような伝承が幾つ方ほかにもあり、東寺の鎮護神として現在でも伏見稲荷大社と東寺をほぼ深い関係が保たれているという。

稲荷大神が稲荷山三ヶ峯に鎮座した際最初に奉仕したのが、荷田氏と言われ、間の峯の荷田社には荷田氏の祖神が祀られている。

インターネット 検索まとめ転記

二の峯から三の峯に向かう途中 間の峯 伊勢大神を祀る荷田社 2016.9.13.

伏見稲荷大社/三の峯/山科折上神社 稲荷塚 を結ぶ稲荷信仰のレイライン

◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稲荷・稲荷山・伏見稲荷大社を結ぶレイライン 1/2

伏見稲荷・稲荷山・折上稲荷、3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んでいる

711年(和銅4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが折上稲荷神社境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神と言われている。伏見稲荷神社・稲荷山・折上稲荷の3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んでいて、これも折上稲荷神社が信仰を集める所以でもある。

西野山古墓  
 花山稲荷神社  
 折上稲荷神社  
 伝坂上田村麻呂墓

京阪伏見稲荷駅  
 稲荷駅  
 伏見稲荷神社  
 千本鳥居

国道1号線  
 稲荷信仰 レイライン

◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稲荷・稲荷山・伏見稲荷大社を結ぶレイライン 2/2

稲荷の大神降臨伝承地 折上神社

伏見稲荷の奥の宮とされる折上稲荷神社 左の森が稲荷塚 2016.9.13. 12:35

折上稲荷神社境内の稲荷塚(京都市史跡)は約1,500年前のもので、稲荷神の前身、祖先神(田の神)がお祀りされた聖地。後の711年(和銅4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神と言われている。山に対する信仰と生産の信仰が一体となって生まれたと考えられ、きわめて古い民間信仰の姿をとどめているといわれる。

## 稲荷信仰と結びついた鍛冶伝承 山科花山稲荷の稲荷塚

### 京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

#### 謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承

#### 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

### 山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがるとより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。



宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。

## 【スナップ写真抜粋 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ】

### 東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 2016.9.13.





## 東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク を終えて



稲荷山 伏見稲荷大社 ミケ峰奥社参詣道 四つ辻から眺めた京都市街地 2016.9.13.

久しぶりの稲荷山 初めて歩いた伏見稲荷参詣道稲荷山横断 walk

霧雨が時折降る曇天の天気でしたが、神が宿る山稲荷山の雰囲気が一層強く感じながら 歩けました。

◎ もう何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稲荷山。私の遠い記憶の山とは随分 イメージが違う。

知っているようで知らなかった山に。

山科側の山中は 鬱蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に稲荷山の山頂ミケ峰への小道がつづく。

稲荷神の化身としての神さんの祠や塚そして行場が数多く散在する摩訶不思議なワンダーランド。

一体幾つあるのだろうか? と。 でも今は山中の自然に溶け込んで、やりのパワース ポットに?

初めて山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれました。

また、京都側 伏見稲荷神社本殿からミケ峰に続くにミケ峰奥社 お山巡りの参道にも たくさんの塚や祠。

もとは朱の鳥居を含め、古くからの稲荷信仰の「おかげ参り」のたまもの。その数はますます増えてゆく。

昔 登った頃と随分イメージが変化して、戸惑いも。本当にすごい

赤い鳥居トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもさすが。

さすが、日本一の外人観光客のスポット。 平日にもかかわらず ミヶ峰への参道はほとんどが外人の観光客。 たくましく山に登ってくる外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも……………。

- ◎ 知らなかった山科から稲荷山山越えすれば、もう これで 稲荷山がわかると思っていましたが、山中尾根筋や谷道に張り巡らされた参詣道の多さとその随所にある塚・行場。まだまだ 知らぬところが 数知れずあると。そればかりか、稲荷伝承も色々。稲荷大社と杉との関係も初めて。 東寺・空海と伏見稲荷との関係も興味ぶかい。やっぱり 自然信仰・土着信仰が、稲荷大神の奥深さの源になっているのだろう。
- ◎ 稲荷山の稲荷大神は農耕豊穰をもたらす開拓神。開拓神として ひょっとして 稲荷山の鉱物資源との関係もあるかもしれぬと 山中の峯・土 そして塚や行場にある伝承等々 歩く先々で痕跡を見まわしましたが、見つからずでした。おかげで 静かな山中のあちこちを眺めながらのWalk 本当に面白い山。
- ◎ 40数年前 伏見稲荷大社に数多くある摂社・参拝所のどこかで、「開運のだるま」を受け、お礼参りをした記憶。訪ねてみようと思いましたが、開運達磨を売っている店はあるのですが、今回はよくわからず。

今回のwalk で、終わりにせず、また ちょくちょく 訪ねよう……………。

霧雨が時折頬をなでる曇天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稲荷山横断ができました。

2016.9.13. 鴨川七条大橋で

鴨川越しに東山を眺めながら by Mutsu Nakanishi

## 京都 東山三十六峰越 walk 2016.9.13.

【1】京都市街と山科を結ぶ東山滑石越「滑石街道」を歩く 2016.9.13.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610suberiishi00.htm>

【2】東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>

◆ 京都 東山三十六峰越 walk 総合動画 2016.9.13.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610higashiyamagoe.pdf>

【1】滑石街道を歩く 【2】稲荷山横断ハイク 2つの動画を1つのfileに

## 参考 和鉄の道・Iron Road By Mutsu Nakanishi

1. 京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

【1】京都市街と山科を結ぶ東山滑石越「滑石街道」を歩く 2016.9.13.

京都これらしい古道散歩道の発見 府道118号線 今熊野勤修寺線 大石内蔵助が山科から祇園・伏見へ通ったという古道

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610suberiishi00.htm>

【2】東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.

掃りは山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランドでした

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>

2. 京都山科 西野山walk 2016.6.3.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>

1. 今の時代に通じる 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !! NHK BS 英雄たちの選択 「衝突! その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」より

2. 京都山科 西野山walk 主要訪問先案内 山科 西野山Walk 西野山周辺の古代伝承

3. 京都山科 西野山walk

3.1. 坂上田村麻呂墓を訪ねる

3.2. 稲荷伝承の折上稲荷

3.3. 西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 3.3. 勤修寺 回遊式庭園の花菖蒲と睡蓮見学

4. 坂上田村麻呂創建の京都東山 清水寺に アテルイ・モシの碑を訪ねる

3. 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>

京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

1. 大石内蔵助が京都に通った古道 滑石街道(醍醐街道)
2. 稲荷神降臨伝承の稲荷山三ツ峰 伏見稲荷大社の参詣道をたどる



[2] 山科の帰りは 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13.

稲荷神降臨信仰の稲荷山 伏見稲荷大社の参詣道をたどる



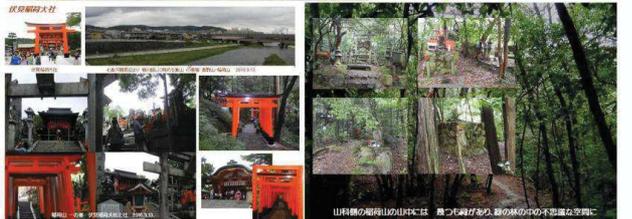
山科西野山から眺める稲荷山  
一度歩いてみたら 東山36峰の南端 稲荷山の横断  
山科 西野山から稲荷山へ登って 伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド



鴨川 京都駅東 堀小路橋から遠望する東山南端部 西野山-稲荷山 2016.9.13.

[2] 山科の帰りは久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13.

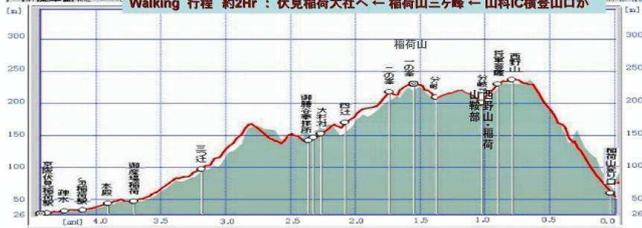
山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド



もう 何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稲荷山。山科側の山中は 鬱蒼とした樹の林に包まれた特が空間に稲荷山の山頂三ツ峰への小道が一つづつ。伏見稲荷への参詣する多くの人がたどった道。神さんの祠やそして行場が多く散在する崖面不思議なワンダーランド。一体誰かあるのだろうか? 寺はやりのハイペース小か? 初めて山科側からたどる稲荷山への道はここが伏見稲荷の御神体山であることを体感させてくれる。また、寂寥感 伏見稲荷神社本陣から三ツ峰へ続く三ツ峰神社 お山頂への参詣は行かれるとく感じおなじみの稲荷山トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもさすが。平日にもかわらず 三ツ峰への参詣を待つ人々ほほえみなどが外人の観光客。さすが、日本一の外人観光客のスポットに。たたく山を登ってくる外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった風景を見る思いも……。稲荷が特別祭なども盛大でしたが、念願の山科側から京都府内側の稲荷山横断ができました。



稲荷山横断ハイク walking Map 伏見稲荷大社へ ← 稲荷山三ツ峰 ← 山科C横登山口から



◆ 稲荷山の山科側山中には 幾つもの祠があり、神の舞う山 静かな森の中 不思議な空間 ここも 最近はやりのマフープスポットの一つか?

◆ 伏見稲荷大社と稲荷山

稲荷信仰の象徴 赤い千本鳥居と稲荷山の杉



伏見稲荷大社は京都東山36峰の南端に位置する稲荷山三ツ峰(三ツ峰)を「稲荷神降臨大社」が居る山-神体山とする神社で、稲荷山の麓に本宮があり、稲荷山全体を神域とする。全国に約1万社あるといわれる稲荷神社の本宮である。旧称は稲荷神社、式内社、二十二社の一社。旧社地は菅原大社で、現在神社本庁に属さない単立神社。

稲荷大社神の神名化された下記神社の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する。稲荷山三ツ峰の山下主野神である「宇迦之御魂大御神」を、「在田大社」を中社、「大宮龍虎大社」を上社に迎え、明治8年(1899年)に本願に合祀された左右の神社、「田中大神」「四天神」とともに、五柱の神を一宇格納(一つの社地に合祀する形)に祀っている。

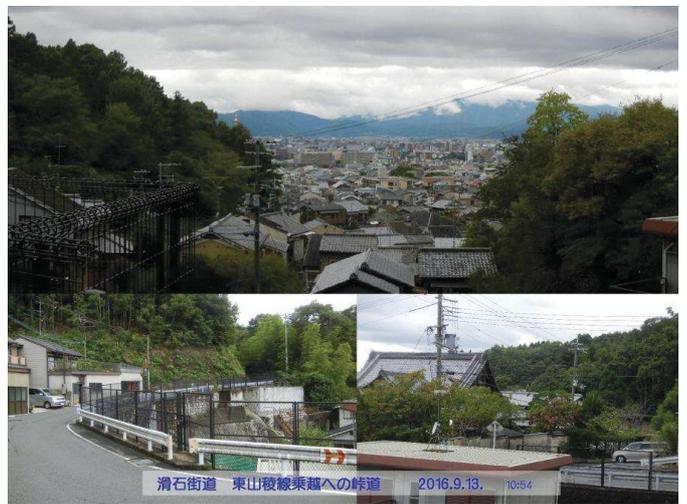
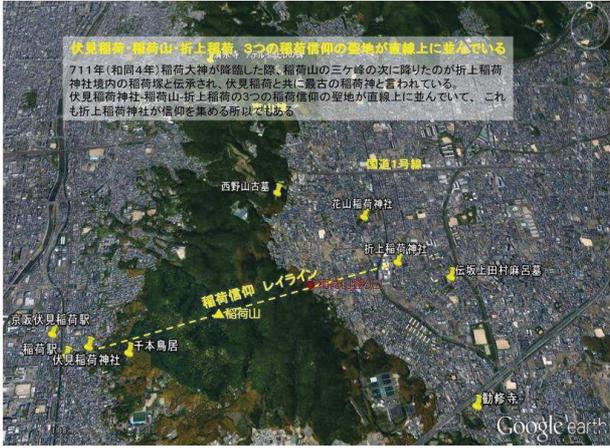


◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稲荷・稲荷山・伏見稲荷大社を結ぶハイク 2/2

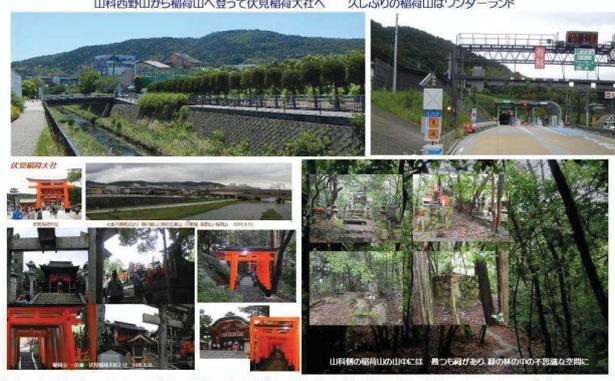


折上稲荷神社境内の稲荷塚(京都市史跡)は約1,500年前のもので、稲荷神の前身、祖先神(田の神)が祀られていた聖地。後の711年(和名4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ツ峰の沢に降りたのが境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に古くは稲荷神と言われている。山に対する信仰と生産の信仰が一体となって生まれたと考えられ、きわめて古い民間信仰の姿をとどめているといわれる。

◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稲荷・稲荷山・伏見稲荷大社を結ぶレイン 1/2



【2】 山科の帰りは 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13.



もう 何十年ぶりか？ 久しぶりに登った稲荷山。山科側の山中は 鬱蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に稲荷山の山頂三ヶ峯への小道がづく。昔から、伏見稲荷への参詣する多くの人がたどった道。神さんの祠や塚として行場が多く存在する摩訶不思議なワンダーランド。一体異つあるのだろうか？ 今ややりのハイパスポイントか？ 初めて山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれる。  
 また、京都側 伏見稲荷神社本庭から三ヶ峰に抜く三ヶ峰奥社 お山道の参道は切れることなく続くおびただしい数の赤い鳥居トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもあふれる。平日にもあふれる。三ヶ峰への参詣を待つ人々もまた、稲荷山の絶景を。さすが、日本の外国人観光客のスポットに。たくましく山を登ってくる外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも……。  
 驟雨が降るのを待たずに、急激な山科側から京都市内街への稲荷山横断ができました。



**伏見稲荷大社**



伏見稲荷大社



七条大橋周辺より 鴨川越しに眺める東山の南端 西野山・稲荷山 2016.9.13

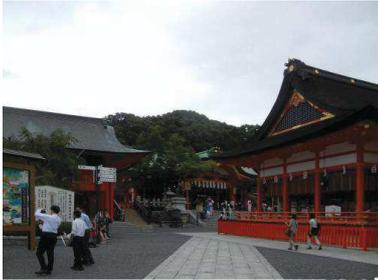


稲荷山一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13

**一度ぜひやってみてみたかった東山三十六峰 東山越 & 伏見稲荷参詣道の稲荷山横断walk**

- ① 滑石街道 東山滑石越 京都にうれしい古道の散歩道 発見でした。曲がりくねった狭い道の両側にびっしり今熊野の家並みが峠まで続く。古い時代から住み継がれてきた生活道路。びわりの東山越。それも 東山通今熊野から東山を登るといふより、ぶらぶら徒歩で約30分で峠にまた。約30分で山科の街へ。 京都と山科がこんなに近いとは・・・。 逆に気分が東山の壁の大きさに驚きも付きました。
- ② 数々の神社も、車にも邪魔されず、山から眺める景色も独り占め。昔も今もずっと 車に邪魔されずに歩ける庶民の道「滑石街道」。
- ③ もう 何十年ぶりか？ 久しぶりに歩いた稲荷山。私の遠い記憶の山とは随分 イメージが違う。知っているようで知らなかった山に。
- 山科側の山中は 蒼蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に稲荷山の山頂三ヶ峯への小道がつく。稲荷神の化身としての神々の神や魂そして行儀が数多く散在する奥深い不思議なワンダーランド。 一体何があるのだろうか？ でも、今は山中の自然にだけ集中。今はやりのパワースポットか？
- ④ 初めに山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれる。また、京都側 伏見稲荷神社本殿から三ヶ峯に続く三ヶ峯神社 お山巡りの参道にも、たくさんの塚や祠。もとは朱の鳥居を含め、古からの稲荷信仰の「おかげ参り」のたまもの。その数はますます増えてゆく。 登った頃と随分イメージが変化して、戸惑いも、本音にすこい。
- ⑤ 赤い鳥居トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもすがすがしい。日本の人気観光のスポットに。 平日にもかかわらず 三ヶ峯への参道を歩いている人はほとんどが外人の観光客。 たくましく歩いている外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも、.....
- ⑥ 知らなかった山科から稲荷山へ越えれば、もう、これで 稲荷山がわかると思っていたが、 山中の尾根道や谷道に張り巡らされた参詣道の多さとその随所にある塚・行塚。 まだまだ、知らぬところか？ 数知れずある。そればかりか、稲荷伝承も色々。 興味深い。 稲荷大社とそれとの関係も初めて。 奥深い伏見稲荷との関係も興味深い。 やっと、自然信仰、土着信仰が、稲荷大社の奥深き道に繋がっているのだらう。
- ⑦ 稲荷山の稲荷大社が農耕神を祀る稲荷神。開拓神として、ひょっとして鉱物資源との関係があるかもしれないと 山中の土・土 そして塚や行塚にある伝承等々 多々先々で痕跡を見ましたが、見つけることができずして。でも、本当に面白い。
- ⑧ 40数年前 伏見稲荷大社に数多くある狭社・参拝所のどこかで、「開運のたまるま」を受けて、また、お礼参りをした 記憶がある。そこを訪ねてみようと思いましたが、開運運を売っている店はあるのですが、今回はよくわからず。

今回のwalkで、終わりにせず、また、ちよく、訪ねてよと..... 霧雨が時折頻るなで曇天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稲荷山横断ができました。



**一度歩いてみたかった東山36峰の南端 西野山・稲荷山の横断**  
久しぶりの 東山walk はワンダーランド おもしろいハイクでした

鴨川 京都駅東 梅小路橋から遠望する東山南端部 西野山・稲荷山 2016.9.13.

**阪神高速山科IC・稲荷山トンネル入口 2016.9.13.**  
この左手すぐのところに大石神社があり、稲荷山の登り口。 地元の人から「大石神社まで行かずとも、IC横の道をトンネルのところまで登れば、稲荷山への登り口」と教えてもらって、ここから登ることに。

参考 和鉄の道・Iron Road By Mutsu Nakanishi

- 京都市街と山科を「東山」を越えて結ぶ滑石街道 & 稲荷山横断 ハイク 2016.9.13.
  - [1] 京都市街と山科を結ぶ東山滑石越 滑石街道を歩く 2016.9.13. 京都にうれしい古道の散歩道 発見 <http://www.infokkna.com/ironroahd/2016htm/iron12/1610suberishi00.htm>
  - [2] 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13. 山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド <http://www.infokkna.com/ironroahd/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>
- 京都山科 西野山walk 2016.6.3.
  - 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の興る山科山科に坂上村麻呂の墓を訪ねる ●坂上村麻呂墓を訪ねる ●西野山山科の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷
  - <http://www.infokkna.com/ironroahd/2016htm/iron12/1607nishinyama00.htm>
- 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26. <http://www.infokkna.com/ironroahd/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>

稲荷山ハイク

**京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.**

- 大石内蔵助が京都に通った古道 滑石街道 (隠御街道)
- 稲荷神降臨伝承の稲荷山三ヶ峯 伏見稲荷大社の参詣道をたどる

山科IC・稲荷山トンネル横 稲荷山登り口 2016.9.13. 11:40  
舗装道路が左へ直角に曲がる角から、山腹へまっすぐ伸びる小道が登り口。 案内板も石もなく、一瞬戸惑いましたが、すぐ奥に入ったところに小さな標識がありました。



山科IC・稲荷山トンネル横 稲荷山登り口 2016.9.13. 11:40

入口には何もありませんが、奥は、しっかりと標識があるよう整備された道が続いています。



119番通報標識  
ポイント番号【1】

稲荷山トレイル 2016.9.13. 11:43

登り口の奥は、すぐ、鬱蒼とした森の中、山腹を登ってゆく整備された登山道に。道脇には、119番通報ポイント【1】標識が立っていました。



山科IC・稲荷山トンネル横 稲荷山登り口 2016.9.13. 11:40

山腹へ取りつく登り口からは、今にも雨が降り出しそう。霧雨に煙る山科の街が一瞥できました。



稲荷山トレイル 2016.9.13. 119番通報ポイント番号【2】

ついに霧雨が降り出したが、樹木がうっそうと茂る林の中、雨粒は落ちてこない。予備では大雨にはならぬと、気分的にはちょっと重たいが、運もしつかりしているし、距離も短い。それに、頂上から向こうは稲荷大社の参道道。今日はやっぱり、稲荷山を越えて京都にでたい。このままぶらぶら稲荷山を歩けるだろうと。それにしても、麓からすぐに視界の脚けぬ鬱蒼とした森、稲荷山全体が神域としてまもられてきたからなのだろうかと、異次元の空間に迷い込んでゆくの思いも感じる。屋根と屋根の間なので傘計に暗い。



みんなでおね  
京都の山を  
大切に  
3

「稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴」

稲荷神社の起源は「山城国風土記」逸文に残されていて、711年(和銅4年)伊弉具兼公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峯(稲荷山)に三柱の神を祀ったことに始まる。その理由は伊弉具がお餅を弓矢の的にしたところ、餅は白い鳥になって飛び去り、稲荷山に舞い降り、そこには稲が生えた。(稲成り・いなり)伊弉具の子孫は、伊弉具の過ちを悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稲荷神社の起源とされており、稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴とされている。

そんなイメージで見ると、稲荷山の道筋の杉林は心なしか、密集していて林が暗い。異次元の空間の感じが漂う。霧雨の林の中、雨粒は落ちてこないのですが、蒸し暑くポケットの地図も内から濡れて、ひしょひしょです。

119番通報ポイント番号【3】 11:51

この周辺は西野山、山科区に属している。一方稲荷山全体は伏見区で、正確には東西に並び連なる二つの山。伏見稲荷の神域も稲荷山。しかし、ほぼ同じ高さの山が連なっていて、全体を稲荷山と親しまれている。



稲荷山へと続く西野山への尾根筋へ登ってゆく ポイント【4】周辺、11:57



谷筋を抜けて、稲荷山へと続く西野山への尾根筋へ登る登山道。視界は開けられないが明るい。



みんなでおね  
京都の山を  
大切に  
5



119番通報ポイント番号【6】 12:01  
山腹を南から登ってきた勤修寺・山科浄水場からの道(左)との合流点  
右が稲荷山への道で、稲荷山へ続く西野山の頂上への登り 頂上はもうすぐ上



尾根筋へ登り切るとそこは中央に三角点がある緑の明るい広場  
鬱蒼とした森を抜けての明るい空間に心地よい  
西野山頂上 三角点 2016.9.13. 12:10



雨に煙る山科が樹木の間から見え 稲荷山へ続く西野山の頂上も近い



西野山頂上 三角点 2016.9.13. 12:10



南へ延びる西野山の広い山頂部 林の中に樺つもろや塚の立てられている一角が現れる  
深い森の中に 突然現れる不思議な空間 2016.9.13.



西野山山頂南部 將軍菩薩とその一角の塚 2016.9.13. 12:12



西野山山頂南部 將軍菩薩周辺 2016.9.13. 12:12  
三角点の広場を抜け、南へ延びる西野山の広い山頂部の林の中に樺つもろや塚があり、  
ちよつと不思議な空間 周辺あちこちに名前も不明な赤い垣や粗上げられた岩がある。  
稲荷山も含め、1万を超える塚や祠があるとされている



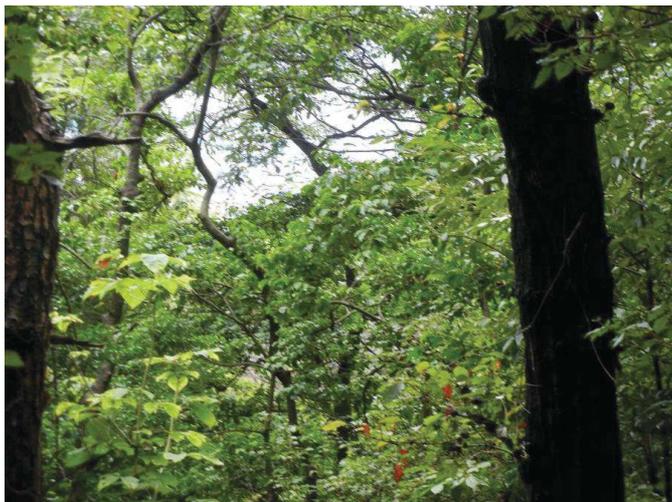
西野山山頂南部 將軍菩薩周辺 2016.9.13.



西野山山頂南側 将軍若藤周辺 2016.9.13.



西野山から西へ林の中を稲荷山との鞍部へと下ってゆく 2016.9.13.



西野山を西へ林の中を下ると稲荷山との鞍部が見えてくる 2016.9.13. 12:19



西野山と稲荷山の鞍部十字路 2016.9.13. 12:19  
左:深草方面 右:滑石街道稲荷山北登山口の標識がついた119番情報ポイント【11】



稲荷山頂上への道 杉林が続く 2016.9.13.  
119番情報ポイント【51】と50番台に代わりました



西野山と稲荷山の鞍部十字路 稲荷山頂上への道 2016.9.13. 12:20.



稲荷山頂上への道 杉林が続く 2016.9.13.  
稲荷山の杉は阿倍朝臣の集落。すうとうも嵐林されているのだから...



正面 稲荷山 一の峯への辻 2016.9.13 12:34

見えてきた鳥居をくぐって 帯へ登って行けば、稲荷山山頂一の峯  
左に白言大神・大岩大神へ下る急な石段 右は、真っすぐ南へ行く竹之下道  
いずれも伏見稲荷 奥の院めぐりの参道である



稲荷山 一の峯への辻 ポイント【52】 2016.9.13 12:34

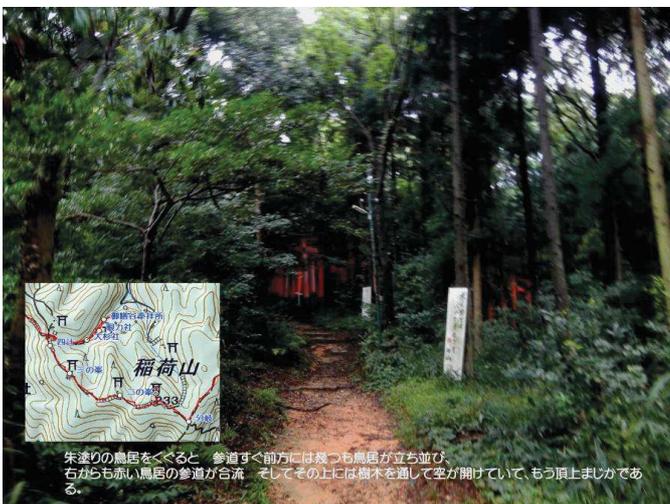
見えてきた鳥居をくぐって 帯へ登って行けば、稲荷山山頂一の峯  
左に白言大神・大岩大神へ下る急な石段 右は、真っすぐ南へ行く竹之下道  
いずれも伏見稲荷 奥の院めぐりの参道である



伏見稲荷参道園

今回歩くまで よく知らなかった稲荷山の副-塚そして行場  
山中いたるところに こんなに沢山あるのを初めて知りました

辻の反対側は急な海田になっていて 稲荷山・西野山から南へ落ちる谷筋へ続く  
稲荷山と西野山の鞍部鞍部のところで、深草方面へ進めばこの下の谷へ出られたようだ。  
この谷筋には白雪大神・大岩大神や幾つも行場があるという。



朱塗りの鳥居をくぐると 参道すぐ前方には幾つも鳥居が立ち並び、  
右からも赤い鳥居の参道が合流 そしてその上には樹木を避けて空が開けて、もう頂上まじかである。



右手からは 御膳谷からの稲荷山山ヶ峰回遊参道が合流  
して稲荷山山頂へ。  
それにしてもおびただしい鳥居にびっくりしました。



稲荷山一の峯近く 杉林の中 おびただしい数の朱塗りの鳥居が頂上一の峯へと続く 2016.9.13 12:35



石段の続く参道が頂上へ  
この参道に入るとさすがに参詣者が多い、それもほとんど外人である



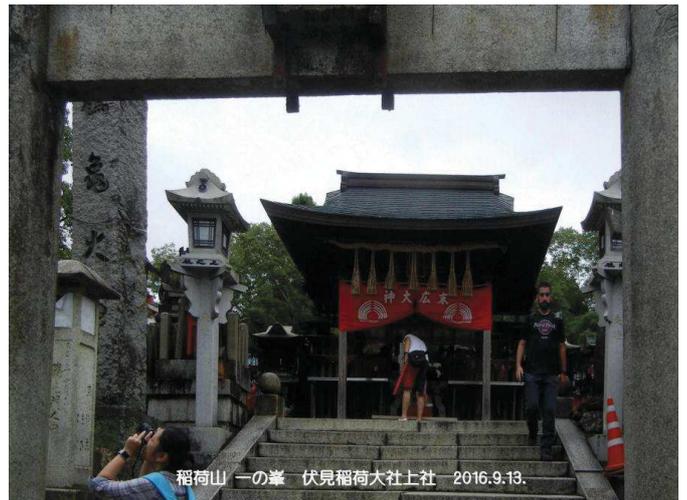
鳥居の向こうに稲荷山一の峯の上社が見え、まもなく頂上到達 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13. 12:40



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.

◆ 稲荷山三ヶ峯の社の祭神について インターネット <http://amegao.hatenablog.com/entry/2014/09/01/125701> ほかり

伏見稲荷大社は稲荷大明神の神名化された下記5社の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する総本宮。稲荷山三ヶ峯の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明治8年(1895年)に末嗣に合祀された左右の摂社、「田中大神」、「四大神」一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



伏見稲荷大社 本殿を眺める

本殿 向かって左から 田中大神 佐田彦大神 宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神の五柱がまつられ、これら五柱の神々の総称が「稲荷大神」とされている。稲荷神は全く一柱の神のように伝えられていたものが、平安時代には下社、中社、上社に三座の神々(宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神)が祀られ、やがて新たに二座(田中大神 佐田彦大神)を加えて現在の形になったと見られている。

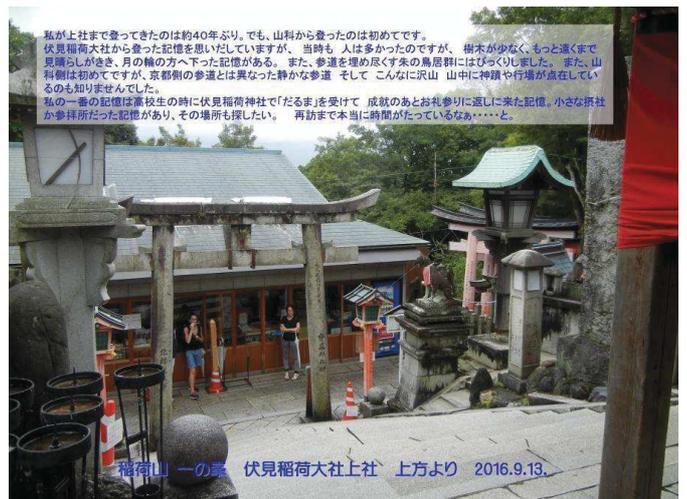
稲荷山の山上、三ヶ峯に祀られている三座の神々は古墳時代にまで遡る稲荷山の神奈備信仰とも結びついており、今でも一ヶ峯(上之社神蹟=天狭大神)、二ヶ峯(中之社神蹟=青木大神)、三ヶ峯(下之社神蹟=白旗大神)の三ヶ峯への信仰を色濃く残しています。(御神蹟とは、太古に神が宿っていた場所と見られ、また、三ヶ峯の大神は稲荷大明神の神明化された神々とされている。)

また、三ヶ峯の社の祭神については時代の移り変わりによって諸説ありますが、現在の大社の見解では、下社=宇迦之御魂大神、中社=佐田彦大神、上社=大宮能売大神とし、下社摂社の田中大神、中社摂社の四大神については由緒不明であるものの、「元は稲荷神と同らかの深い関わりがある地主神、あるいは土着の傾向が濃厚」とし、五柱の神を祭神として、伏見稲荷本殿に、一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



一の峯 上社 二の峯 中社 間の峯 荷田社 三の峯 下社

私が三ヶ峯に登った記憶は遠く学生時代 もっと樹木も少なく、街がみえた。また、鳥居が山上まで 参道を途切れることなく埋め尽くしていることに驚いています。当時も参詣者は多かったですが、今の外人観光客の多さにもびっくりです。



私が上社まで登ってきたのは約40年ぶり、でも、山科から登ったのは初めてです。伏見稲荷大社から登った記憶を思い出していますが、当時、人は多かったのですが、樹木が少なく、もっと遠くまで見渡しがきき、月の輪の方へ下った記憶がある。また、参道を埋め尽くす鳥居群にはびっくりしました。また、山科側は初めてですが、京都側の参道とは異なった静かな参道 そして、こゝに沢山 山中に神蹟や行場が点在しているのも知りませんでした。

私の一番の記憶は高校生の時に伏見稲荷神社で「だるま」を受けて、成就のあとお礼参りに返しに来た記憶。小さな摂社が参拝所だった記憶があり、その場所も探したい。再訪まで本当に時間がたっているなあ……。

稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 上方より 2016.9.13.



一の峯から二の峯へ 2016.9.13.  
鳥居のトンネルの石段を一段下って登り返すと二の峯・中社



稲荷山 二の峯 伏見稲荷大社中社 2016.9.13. 12:50



稲荷山 二の峯 伏見稲荷大社中社 2016.9.13.



二の峯から三の峯に向かう途中 間の峯 伊勢大神を祀る荷田社がありました 2016.9.13.



伏見稲荷大社・間の峯 荷田社 と 荷田氏  
伏見大社の由来についての伊奈伊承に対して、稲荷神の御説を「稲を食なす老翁」に求める伝承があり、伏見稲荷で奥氏とともに神宮を勤めた荷田氏系の伝承と書かれている。  
稲荷大明神流記(南北朝時代)による(大意)  
弘仁7年(816)4月の朔、弘法大師が紀州田辺の郷で身の丈八尺あまりの真相の老翁に遇った。  
(これを神と知った)大師は、諸国国家のため密教秘傳の圓珠・東寺に在りて神の加護を待つと告げると、老翁はその身ぎらには必ず兼せて大師の法命を可るであろう、と答えた。  
降つて弘仁14年(823)4月18日、彼の紀州の老翁が、稲を担い移の妻を産げ、二人の女性と二人の産子をともなつて東寺の南門にやつてきた。  
大師は喜んでこれを養ひし、道荷もこれに習つた。老翁はしほつ家守の家を寄附したが、その間大師は東寺の相山に勝地を定めて17日間籠居し、稲荷の老翁を神として祀つたとある。  
同じような伝承の變つたものが、もあり、東寺の鎮座神として現在でも伏見稲荷大社と東寺を以て、(關係が断たれていない)といふ。  
稲荷大社が稲荷山三ヶ峯に散居する際、最初に建立したのが、荷田氏とされ、間の峯の荷田社には荷田氏の祖神が祀られている。  
インターネット検索まとめ筆記

二の峯から三の峯に向かう途中 間の峯 伊勢大神を祀る荷田社 2016.9.13. 12:54



伏見稲荷 三の峯・下社前 数多くの塚が並んでいる 2016.9.13.



伏見稲荷 三の峯・下社へ 2016.9.13.



伏見稲荷 三の峯・下社 2016.9.13.



三の峯から四辻へ 鳥居のトンネルが続く 2016.9.13.



伏見稲荷 お山巡りの参道の起点 四つ辻 2016.9.13.



下から登ってきた参道

御膳谷へのお山めぐりの道(逆まわり)



伏見稲荷 お山巡り参道の起点 四つ辻 2016.9.13. 13:01  
鳥居のトンネルを抜けると眼前に京都市街地の景色が広がっていました



四つ辻は下から登ってきて「お山めぐり」の起点「お山めぐり」の参道 御膳谷参拝所を往復してから山を下りることに通常伏見稲荷大社本殿から奥の院の参道を登ってきて、この四つ辻から逆時計回りで三ヶ峯を巡ってこの四つ辻へ戻る。今回は山から登って 直接稲荷山 頂上に登ったので、一の峯から二の峯 三の峯を登って四辻に降りてきました。それで 四つ辻から三ヶ峯の北側の御膳谷の参道の参拝所まで往復してから 稲荷大社にくだることにしました。



御膳谷へお山めぐりの道(逆まわり)の参道を下りる 2016.9.13. 13:04  
白旗の向こうには先ほど降り抜けた三ヶ峯への木の道民のトンネルが見えています



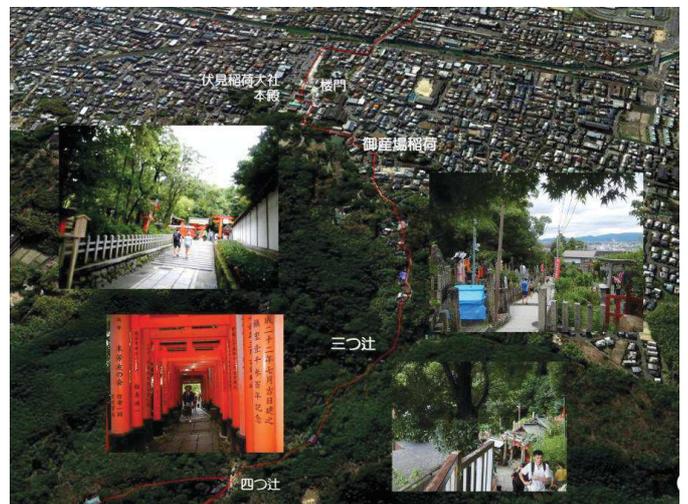
御膳谷 奉拝所 御膳谷神蹟 三ヶ峯の北後背地に当たる場所 2016.9.13. 13:11

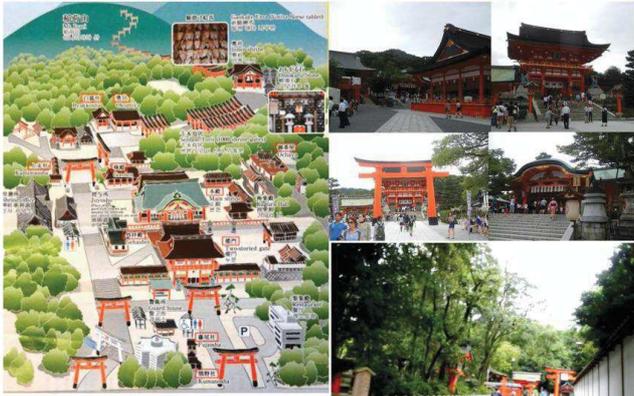


御膳谷 眼力社 2016.9.13.



御膳谷 奉拝所 三ヶ峯の北後背地に当たる場所 稲荷谷神蹟周辺 2016.9.13.  
台地の上にはたくさんの塚が点在していた





三の峯から参道を下って伏見稲荷大社の境内に長つてきました。 2016.9.13. 13:45  
 山科IC横の乗り口から約2hrで 伏見稲荷の楼門前に到着です。雨も途中であがってよかったです。稲荷大社にお参りして 全行程完了に。



伏見稲荷大社 楼門前 参道 2016.9.13.



伏見稲荷大社 楼門前 参道 2016.9.13.



伏見稲荷大社 本殿 2016.9.13.

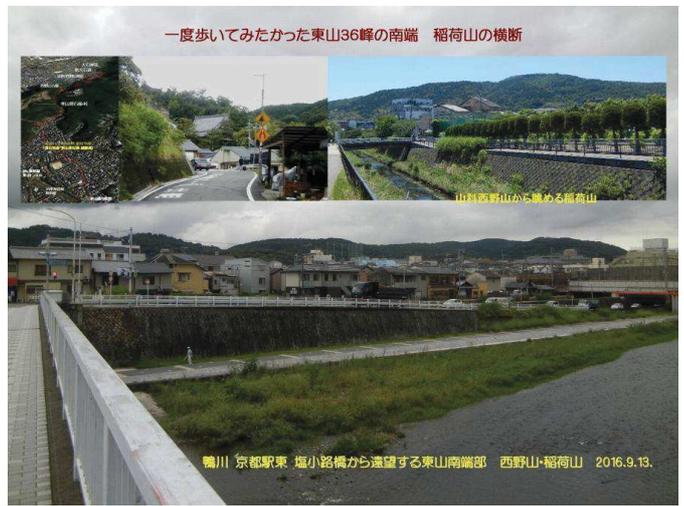


伏見稲荷大社 外拜殿より本殿 2016.9.13.



伏見稲荷大社 多くの人でいっぱいの正面西参道 2016.9.13.





**[1]京都市街と山科を結ぶ東山滑石越 滑石街道を歩く 2016.9.13.**

最近 山科西野山界隈を歩いて知ったJR東山トンネルの上を越えて京都と山科を結ぶ東山滑石越の滑石街道(府道118号今熊野新幹線)はかつては京都と山科を結ぶ街道として、京都ではよく知られた道で、東山を越えて山科に入る西野山地区は古い時代 中臣氏(藤原氏)の本拠地であり、坂之上田村園の墓もある。また、忠臣蔵大石内蔵助が居住し、忠臣蔵の村面をめぐらしたところでもある。また、この東山越は稲荷山として醍醐への道でもある。古い歴史をたどる道で「滑石街道」の名前はさぞ曲解があるだろう。「滑石街道」の名は「忠臣蔵の稲荷を移る大石内蔵助が、旅道を歩いて、毎年毎年 東山の山道を越えて 稲荷へ参りつづけた道で足を滑らせて転んだことであらう」と推測し、大石も滑る→すべり石)街道と呼ばれるようになったという。何かすごい歴史がこの道に隠されているかと思いましたが、意外にも庶民の感覚のネーミングでした。

また、曲がりくねった狭い道の両側にびっしり今熊野の家並みが峰まで続く生活道路。古い時代から住み継がれてきた生活道路。三条通白河神社 五条通東山道の道が、稲の古い車道が走る幹線道路にして、びっしの東山道。それも 東山通今熊野から東山を登るといふより、ふらふら坂歩きで約30分で峠に 来た。約30分で山科の街へ。約1時間 急げばもっと短い時間で 京都と山科の崖「東山」を越えられるなど本当にびっくり。

昔も今もずっと 崖に邪魔されずに歩ける庶民の道「滑石街道」なんだと。観光客の雑踏もなし。車にも邪魔されず、山から眺める景色も絶り。京都にない古い街道の散歩 発見でした。

観光客の雑踏もなし。車にも邪魔されず、山から眺める景色も絶り。京都にない古い街道の散歩 発見でした。

小籠の雨がらついています。やっぱり このまま大石神社の横から稲荷山に登って 伏見稲荷大社へ参拝して帰ることに

2016.9.13. 山科 滑石・新大石道で たどってきた滑石街道の道を眺めながら Mutsu Nakanishi

